

【フランス語】

読書案内

自習教材

最初に断っておくと、特別な教材などなくても自習はできる。教科書の例文を繰り返し発音し、単語を置き換えて練習するだけでも相当な効果がある。外国語の勉強は体を鍛えるのに似ている。最新のトレーニング・マシンがなくても、腕立て伏せや腹筋運動はできるはずだ。「何かいい参考書はないですか」と探し始めるのは、上達への第一歩であると同時に、人によっては脱落の兆候でもある。上達の手助けとなることを願いつつ、いくつかの教材を紹介することにしよう。

〈文法書〉

- ・目黒士門『現代フランス広文典〔改定版〕』（白水社、2015）

初心者から上級者まで使える実に良くできた文法書の王様の存在。ロングセラーの改訂版。例文も豊富でわかりやすい。

- ・久松健一『英語がわかればフランス語はできる！』（駿河台出版社、1999）

英語の知識を活かしながらフランス語の仕組みを理解するのに役立つ。

〈文法練習〉

- ・『トレーニングペーパー フランス語 教養課程 文法中心学習 35 日間完成(1)／28 日間完成(2)』（Newton Press, 2003）

1 日 1 課を目標に、とにかく書いて覚えることを主眼とした教材。フランス語に読み仮名が振ってあるので、初学者の自習用教材としては最適。

〈単語集〉

- ・朝倉季雄『朝倉フランス基本単語集』（白水社、2000 年）

- ・久松健一著『《仏検 2 級・3 級対応》フランス語重要表現・熟語集』（駿河台出版社、1999）

- ・久松健一著『《仏検》3・4 級必須単語集』（白水社、2001）

- ・Claire Miquel, *Vocabulaire progressif du français - Niveau débutant/Niveau intermédiaire/Niveau avancé* - 3ème édition (CLE international, 2017-2018)

語彙集を選ぶ際に目安となるのが、「仏検」や「DELF/DALF」向けの受験用参考書として刊行されたもの。とくに CLE international から出ているものは、豊富なイラスト付きで視覚的にも記憶に定着しやすい。以上を出発点として自分に合ったものを探してみよう。

〈会話練習〉

- ・中井珠子／南玲子／飯田良子『フランス人が日本人によく聞く 100 の質問〔全面改訂版〕』（三修社、2013）

フランス語で日本について説明するために書かれた教材。中級者向けだが、初心者にとっても日本社会や文化を外国語でどう説明するのか、考える上で参考になる。

- ・釣馨／武内英公子／ジスラン・ムートン『日本人が知りたいフランス人の当たり前』（三修社、2016）

日本人の目には不思議に映るがフランス人にとっては普通だと感じられる事柄を、50 のテーマと 100 の質問で説明している。仏・日対訳構成で、日本語の文章はかなり拙いが、日本とフランスの違いをざっと把握するのに向いている。初級文法を終えれば、対訳を頼りに中級自習教材としても使える。

フランス全般

・東京都立大学フランス文学研究室（編）『フランスを知る 新〈フランス学〉入門』（法政大学出版局、2003）

民族・言語・文学・思想・地理・日仏関係にわたってフランスを論じた好著。フランスを総合的に知るには格好の入門書となる。

・現代フランス社会を知るための 62 章（明石書店、2010）
現代フランスの政治、社会、文化を 62 のキーワードから読み解く。

・ミシェル・ヴィノック『フランスの肖像——歴史・政治・思想』（吉田書店、2014）
政治史を専門とするフランスの歴史家が、外国の学生からよく受ける質問に答えるという形で書かれた本。全 30 章。

・じゃんぼ〜る西／カリン西村『フランス語っぽい日々』（白水社、2020 年）
漫画家の日本人とジャーナリストのフランス人の夫婦が、漫画とコラムで異文化体験と外国語のある日常生活を綴る読み物。

・『ふらんす』（白水社）
フランスをテーマにした月刊誌である。四月号からは紙上でフランス語講座が始まる。評論や映画の対訳シナリオなども収める。

資格試験

・『実用フランス語技能検定試験・仏検合格のための傾向と対策』（エディション・フランセーズ）

仏検 (<https://apefdapf.org/>) の対策本である。1 年の秋に 4 級、2 年の春か秋に 3 級というのが目安となるだろう。

・ABC DELF - CLE international
フランスが主催している検定試験として、DELF と DALF の二種類がある (<https://www.delfdalf.jp/ja/accueil/>)。国際舞台での活躍を目指すなら、最初から DELF の取得を目指すといよい。DELF と DALF は、6 つの独立した免状によって構成され、それぞれ「ヨーロッパ言語共通参照枠」で規定する 6 等級区分に対応している。受験者は自身のレベルに応じ、希望するレベルの試験から受けることができる。東 1 号館 1 階の共同教材準備室に配架されている教材を参考にしっかりと勉強しよう。

フランス文学

・永井敦子／畠山達／黒岩卓『フランス文学の楽しみかた』（ミネルヴァ書房、2021 年）
幅広い時代とジャンルから 55 作品を厳選し、内容を紹介するとともに背景を解説する入門書。図版も豊富にある。

フランス芸術

- ・高階秀爾／三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』（新書館、1997）

主要な芸術家に関する基本情報を掲載しながら、フランスを含めた西洋美術の歴史をコンパクトにまとめている。

- ・今谷和徳／井上さつき『フランス音楽史』（春秋社、2010）

中世から現代までのフランス音楽の歴史を、社会的・政治的な背景も交えながら概観している。入門書というよりは、一定の知識を要する専門的な内容になっている。

フランス哲学

- ・川口茂雄／越門勝彦／三宅岳史編著『現代フランス哲学入門』（ミネルヴァ書房、2020年）

19世紀から21世紀のフランス哲学に関する入門書。時系列に沿って主な思想家をピックアップし、その生涯と思想を1人あたり5ページ程度にまとめたもの。充実したコラム付き。